

V. 特記事項

1. 大学の新名称について（「第一工業大学」から「第一工科大学」へ）

「工業」とは本来「モノづくり」を意味する言葉であるが、現代社会においてはその「モノ」の意味が大きく変化している。20世紀の工業社会では「モノ」はどちらかといえば「単体」で存在しており、ただ在りさえすれば価値を持っていた。しかしながら、21世紀の情報社会では全ての「モノ」がICTにより繋がっており、その繋がりを生かした「サービス提供」こそが、大きな価値を持つようになってきている。

本学はこの変化に対応するべく、コンピュータサイエンス、特にビッグデータを扱うデータサイエンスや、機械に知能を持たせるAIなど、「サイエンス」の部分を大きく教育に取り込んでいくことを目指し、令和3(2021)年4月に「第一工科大学」へ校名を変更した。

2. 新たに求められる知識や技術にも対応した教育（「3本の柱」）

校名の変更に併せて、新たに求められる知識や技術にも対応した大学の教育方針「3本の柱」を制定した。現在パイロットとして活躍しているある世代が2030年をピークに大量退職を迎える「2030年問題」、AIプログラミングが情報の専門家だけでなく誰でも扱えるようになり様々な分野で成果を上げ始めたことにより求められ始めた「AIを活用できるエンジニア」の育成、また、地球温暖化につながる温室効果ガスの排出をゼロにする「脱炭素社会」の実現が将来的なニーズとなっている。これら社会のニーズに応えるべく「航空パイロット・エンジニア」、「ICT・AI・データサイエンス」、「環境エネルギー」を三つの柱に社会の課題を解決できる人材の育成を行う。

1本目の柱「航空パイロット・エンジニア」については、航空工学部航空工学科において、航空操縦学専攻の入学定員を増やすとともに、AIやデータサイエンス関連の専門科目を新設しAI・データサイエンスの素養を持つ航空パイロット・エンジニアの育成を目指している。

2本目の柱「ICT・AI・データサイエンス」については、「AIと社会」、「データサイエンス入門Ⅰ、Ⅱ」、「プログラミング入門Ⅰ、Ⅱ」、「情報リテラシー」、「コンピュータリテラシー」の科目を共通教育カリキュラムで全学科受講可能としている。また、工学部情報電子システム工学科では、AI・データサイエンスの専門科目を新設した新カリキュラムを令和2(2020)年度から実施している。

3本目の柱「環境エネルギー」については、令和4(2022)年度に工学部自然環境工学科を「環境エネルギー工学科」へ学科名称を変更し、都市環境エンジニアリング分野ではインフラ整備と様々な環境との関連性について、クリーンエネルギー分野では環境に配慮した持続可能な社会の構築に不可欠なクリーンエネルギーについてそれぞれ学べるようにカリキュラムを編成・実施している。

3. UI等

校名の変更に併せて、大学のロゴや大学カラー等も新たに設定した。